

## **国**際卓越研究大学に東北大学が選ばれたことをしっかり語る ～大学をみる視点～

入試の難易度が上がるという意味でもなく、ただ政府から研究費がもらえる、すごいね！！という意味でもありません。※結果的にそうなると思いますが……。9月1日に国内の国際卓越大学の第1号に東北大学を認定候補とすると発表されました。次年度以降も2, 3号と続くようです。発表をうけて、当日の午後に東北大学の野英男学長が「大変光栄である」「世界をリードする研究大学を目指す」とコメントを出しました。大学ファンドが運用する資金を選ばれた大学に重点的に支援する制度について、できるだけ余計な部分を省略して、まとめます。

### (1) 背景① ～国際競争～

日本国内の大学の研究力について、世界の他大学から追い抜かれている・・・という報道を聞いたことがありますか？ 大学の評価については、様々な尺度があり。私たち大学外の人達からすると、知名度や立地、教員1人あたりの学生数、学費や奨学金制度などに目がいきまいます。ただ、大学現場では、論文数やその引用数、財政、学内の組織等をとっても注目しているようです。そして近年、それらを総合して国際比較が盛んです。国外の大学に比べて、日本の大学が「勢いがなくなった」ということが報道されはじめました（具体的には中国を中心とする新興国の研究が盛んになったこと。決して日本の研究のレベルが下がったというわけではない）。

### (2) 背景② ～国内動向～

2000年代初頭（たしか2004年）に、国立大学が「法人化」されました。今の新生生にとって「何のこと」という話でしょうが、国立大学（公的な組織）→国立大学法人（民間っぽい）という変化がなされました。その変化の背景は、当時の「公務員総数の削減」や「魅力的な大学へ」といった政策がいくつもからんでいますが、日本の大学にとって大きな分岐点でした。※みなさんは新自由主義という言葉を知っていますか。あわせて、法人化について詳細を知りたいければ社会科の先生に聞いてみよう。

さて、法人化後の大学は、財政について大きな注目点があつまるようになりました。具体的には、大学では研究にたくさんの経費（つまりお金）がかかっており、その経費が今後はどこからもらえるのか、ということ。さらに、大学の研究・教育活動が「収支」、特に収入に好影響をもたらすのか、ということ。国立大学の運営費は大学生が納付する「授業料」もありますが、実は国からの運営費交付金（国からもらえる運営費。とても多額）が大きな割合を占めています。法人化でもこの運営費交付金はありますが、各大学で差があります（東大に代表される難関大学の研究費が多い。だから・・・という話は進路ガイダンス等で聞いたことがあるでしょう）。そして、その割合は減額されました。だからこそ、各大学独自の収益についても注目が集まります。一般的な商業施設等であるならば、「どれくらい売れた？」という話になるでしょうが、大学が教育・研究機関であるため、その指標は少し複雑です。これは「うちの大学の研究や活動は社会のためになっているか」という観点から「学外からの研究費支援」や「研究成果からの収益」という形になるからです。※つまり商売とはちょっと違う。

### (3) 結論① ～つまりどうなの～

国際的な競争力をつけるため、世界卓越研究大学に認定されれば、年間100億円程の支援が国からなされます。しかも25年間！！ ちなみに東北大学の「収益」は1532億円（全国5位。東大は2641億円で運営費交付金は827億）ですから、かなりインパクトのある数値でしょう。ただ、金銭的な変化だけでなく、海外の優秀な研究者や留学生にこれまで以上に学内で活躍してもらおう、ということもあります。留学生は全体の30%まで増やす方針のようです。そして、認定大学は毎年3%の成長がもたれられます。研究費不足が指摘される日本の大学において、国の重点的な支援は研究を後押しするでしょうし、世界的な研究者や向学心あふれる優秀な留学生の増加は、大学全体の雰囲気をもよおさせるでしょう。

#### (4) 結論② ～そしてどうなのか～

ただ、大学のことを考えるうえで、「学問の自由」という視点は欠かせません。学ぶことは分野に差はなく、そして自由が前提であるからこそ未知への挑戦「研究、基礎研究」がなされる。知を向かい合う大学関係者ならば、忘れてはいいないことです。世界卓越研究大学への認定は、様々な条件があるようですが、「大学内に合議の組織」の設定がもとめられているようです。全国の大学研究が多くの署名をあつめ「大学の学問の自由が危機である」という要求を昨年度だしました。もし、大学が「収益」を重視するあまり、「儲かる研究」ばかりに限定するようにしろ！！という方針を合議組織で定めたら……。儲かればいい、社会で有益ならいい・・という視点は、社会の経済活動の大きなうねりとともに、学問の自由を吹き飛ばし、特定分野への研究のみに突き進む。そんな不安の声もあります。そして、海外の大学はもっと研究費に潤沢な資金がある（ちなみにハーバードは4兆円あるらしい！！）という、「さらなる課題」も提言されています。

#### (5) まとめ

何か今までにないことが起これば、そしてそれがインパクトあるものであるほど、世の中には賛否双方の声が多くなります。今回の出来事について、新庄北高校からも毎年進学者がいる「地元・東北大学」が世界への扉をひらいたことは、間違いありません。自宅から2時間の距離に世界基準の研究・教育施設があり、高校の学習をしっかりすれば、その場に行くことができる。そんな環境ができたことは、きっと喜ばしいことでしょう。また、その影響で他大学もより一層、良い方向へ変化していくのではないかな、と思います。東北大学だけが大学のすべてではありませんし、各大学それぞれが社会的な使命をもって設立されています。自分が志望する大学は何で勝負しているのか、ぜひ調べるきっかけとしてください。

今回の出来事は私たちに大学の新たな視点を整理させてくれました。大学の教授は社会と結びつく研究をする仕事であり、「教える」以上に「研究」なんだな、と。※みなさんの志望理由も「研究」の視点によせて書けばいいのかなと。なお、世界卓越研究大学について詳細は文部科学省もサイトやネット上の記事に多数ありますので、興味があればぜひ読んでみてください。

## **K**……受験で忘れてはいけない10の「K」 ※机の前に貼っておこう！！

よ 87 才でまだバリバリ働く方の本を読んで感銘をうけました。すごいな、と。そこから学んだことを踏まえて（真似をさせてもらい）、新庄北高校版にして、みなさんに伝えます。張っておこう！！

### 【受験生にとって大事な 10 個の「K」】

- ① **家族** : 最後まで原点。支えてくれること、応援してくれることを忘れない。
- ② **教室** : とともに学ぶ仲間、教員や後輩は味方。安心できる場所に。
- ③ **健康** : 体を壊してまでやることは1つもない。計画と集中。
- ④ **心** : 思いやりを忘れない。掃除や挨拶もそうです。
- ⑤ **行動** : どれだけやってきたか。すべてはここでしょう。
- ⑥ **気合** : 合言葉は「負けるものか！」
- ⑦ **金** : 意識すると思いますが、まずは保護者にまかせて。
- ⑧ **北高** : プライドを初心。そして学校を最後まで信じよう。
- ⑨ **今日** : 1日1日を大切に。
- ⑩ **ここから** : 未来は変えられる。未来が一番大切。

※参考文献：郡山史朗『87歳ビジネスマン。いまが一番働き盛り』青春出版社

今週は、いよいよ共通テストの願書記入！！